



# けやき会通信



## 櫛会会長新任のご挨拶

けやき会 児玉 豊

櫛会前任の矢野宏様から引継ぎました新任の児玉豊です。  
縁有って2003年11月に水野先生から糖尿病の診断を下され、翌年2月に関東中央病院に教育入院し、其れがご縁で紹介された櫛会に入会しました。当初から運動療法と食事療法のみで約10年間、血糖計測で血糖値をコントロールしていました。然し、思いの外、動脈硬化が進んだ結果2013年4月に冠動脈の三枝病変の診断を下され、幸い関東中央病院の心臓血管外科でバイパス手術を受け、事なきを得ました。手術後、高血糖値を下げる為、暫くの間、インスリンを注射していましたが、約10年ぶりに糖尿病教育入院を水野先生にお願いして快く受け入れて戴き、引き続き入院しました。



その後、櫛会に参加する機会も増え、微力ながらお手伝いをと「さかえ」の発送に参加しました。そのご縁で会長の矢野さんから、櫛会の副会長に推薦され、お手伝いを始めた訳です。会計や、諸般の雑用、東糖協の「散歩の会」に参加し、更に櫛会の40周年記念行事に参加しました。その過程を通して櫛会の歴史が、忘却されその初心が失われているような気がしました。例えば、今、二階廊下角に櫛会が30年前に寄贈した柱時計が、壊れ廃棄の憂き目にあっていました。幸い、櫛会前矢野会長の了承を得て多少の費用で修理し、櫛会の意志を受け継ぎ今後、又30年間大切にしていれば、持つでしょう。30年前皆で金を出し合って寄贈した時計がリバイバルしました。其の頃活躍した方々は、現在、糖尿病教室に参加できないのは、非常に寂しい事です。同時に40周年で気が付いたことは、設立当初からの記録が櫛会に残っていないことです。設立当初の写真も非常に少なくメンバーですらも明確では有りません。35周年に現いちの会の大沢会長が、パネルに取り纏めた写真は其の直近の活動を示す内容でした。今回、櫛会の流れを解明するため、会員有志からお写真をお借りし纏めましたが、残念ながら不明点が多く、皆様のご協力を得て情報収集できるか否かが今後の課題です。

今回、前矢野会長が会員減少を気にされており、今後の活動で会員増強を図る事です。其の為の伝法は、色々有ると思いますが、是非、皆さん方にもお知恵を拝借したいのです。糖尿病は、諸般の病の根源にあることは、頭で判っていても一人で先を目通すのは、非常に困難です。その一方で新薬・食事療法・運動療法・治療法は、日進月歩です。高血糖・低血糖を上手にコントロールする機器やIPSによるβ細胞の移植等々です。各人にとって一番良い糖尿病の付き合い方をメディカル・コメディカルそして櫛会会員と共に歩めればと思っています。不束者ですが、其の為に何か尽力出来ればと思い、北郷副会長、理事の鈴木さん、原さん、儀賀さんにご協力をお願いしています。どうぞご意思のある方は、是非、理事に立候補して戴きたく宜しく、お願い申し上げます。